



# 能登やさしいこめづくり情報

令和元年8月  
能登米振興協議会  
能登米生産者協議会  
能登南部営農推進協議会  
JA 能登わかば

## 中生収穫編

### 「適期刈取り」、「適切な乾燥・調製」で品質向上！！

#### 1 生育概況と当面の管理

- ・コシヒカリの出穂期は7月31日に迎えたことから、刈取り適期は9月4日～8日(刈始9月2日)の予想となっています(8/23時点)。
- ・7月24日の梅雨明け以降、高温となる日が続いています。今後も気温の高い日が続くことから高温登熟年(出穂以降、高温で経過)とな
- ると予想され、このような年は乳白粒や胴割粒の発生が多くなります。
- ・当面の管理としては、刈取り直前まで適正な水管理(①乾かさない! ②ずっと溜めない! ③早期落水しない!)を継続し、登熟の向上に努めましょう。
- ・また、中能登エリアでは、乾燥・調製の際の「もみ混入」や「肌ずれ」による落等が目立っています。適切な乾燥・調製を心掛け、品質の向上を目指しましょう。

#### 2 刈取りまでの水管理 **【ポイント 刈取り直前まで適正な水管理を継続しましょう!】**

- ・登熟期の水管理は、品質や収量向上に最も重要な管理となります。間断通水を刈取り直前まで継続しましょう。
- ・ため池など用水不足が懸念される地域では、計画的な水管理に努めましょう。

##### 【間断通水の徹底】

- ポイント① 乾かさない!** ⇒ 3～5日間隔を目安に通水し、土壌の飽水状態を保ちましょう。  
<注意> 日中の気温が30度を超える日が続くときは、できるだけ夕方に通水しましょう。
- ポイント② ずっと溜めない!** ⇒ 気温が高い日中の湛水状態は根の機能を低下させるため、避けましょう。
- ポイント③ 早期落水しない!** ⇒ 早期の落水は未熟粒や胴割粒の発生を助長するため、収穫直前まで通水をしましょう。

※台風が発生した場合は…台風の接近によりフェーン現象(熱風や高温)が発生する場合は、入水し一時的に湛水状態を保ち、稲体の急激な乾燥を防ぐようにしましょう。フェーン現象が治まったら、湛水状態をやめ、排水しましょう。

#### 3 今年の刈取り時期の目安 (8月23日調査)

品 種	出穂期	刈取り時期	籾黄化率	(前年の刈取り時期)
コシヒカリ	7月31日	刈始：9月2日～ 適期：9月4日～8日 (山間地+3日)	80～85%	9月1日～6日 (山間地+3日)

籾黄化率80%の  
穂のイメージ



[注意]刈取り時期は、出穂期や田植え時期、ほ場や生育条件、天候によって前後します。

★上記の**刈取り時期は目安**とし、ほ場の『**籾黄化率**』を**必ず確認した上**で、**適期収穫**に努めてください。

[参考]籾黄化率とは……1穂の全籾のうち、緑色素が消え黄色く変色した籾の数の割合のことです。

##### 【高温登熟年:籾の黄化程度による刈取り適期判断の目安】

籾の黄化程度	30%	40%	50%	60%	70%	80%	85%	90%
刈取り適期	15～16日後	12～13日後	10日後	7～8日後	5日後	2～3日後	適期～刈終り	刈遅れ

高温登熟年は籾の黄化が一気に進

収穫期間

#### 4 刈取り時期と刈取り作業 **【ポイント 籾の黄化率を確認し、刈取り遅れはしない!】**

##### (1) 刈取り時期について

- ・高温登熟年は、籾の黄化が早くなるため刈取り適期が短く、刈り遅れると「胴割粒」や「着色米」が発生しやすくなります。
- ・そのため、高温登熟年では次項の刈取り目安を参考に、適期刈取りに努めましょう。

##### 【高温登熟年の刈取り目安】

- 籾黄化率80%から収穫を開始し、刈り遅れないよう黄化率85%までに収穫を終えましょう。
- 高温登熟年におけるコシヒカリの刈取り適期の目安は、『登熟積算温度』で980～1,030℃
- 高温登熟年におけるひやくまん穀の刈取り適期の目安は、『登熟積算温度』で1,100～1,150℃

[参考]登熟積算温度とは……出穂期以降の日平均気温の積算で算出できます。

## (2)刈取り作業の注意点

### ①刈取り前に、ほ場内のクサネムを必ず除去しましょう。

・クサネムの種子(右の写真)は、ライスグレーダーで取り除けないため、異物混入で落等の原因となります。



クサネム種子(黒い粒:左)

### ②早期に倒伏した部分や早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、別刈り・別乾燥で調製しましょう。

・早期に倒伏した部分は乳白粒等の未熟粒が発生しやすく、水不足等で早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、胴割粒・未熟粒・着色粒が発生しやすくなります。

・倒伏したほ場を刈取りする場合は、倒れている方向に向かって刈取りましょう。倒れている方向と反対側の方向に刈取ると、コンバインの中で籾が詰まり、刈残しが増加することがあります。

### ③刈り取った籾は、速やかに乾燥機に張り込みましょう。

・刈取りから**4時間以内に乾燥機へ張り込み、通風**しておくことで、ヤケ米の発生を防止することができます。  
・水分が高い籾はヤケ米の発生を助長するので、**降雨直後などは無理に収穫を行わない**ようにしましょう。

## 5 乾燥・調製作業

### (1) 乾燥作業の注意点

#### ①急激な乾燥や高温乾燥は避けましょう。

・乾燥は**35℃以下で、乾減率0.8～1.0%/時程度**としましょう。  
・急激な乾燥や高温乾燥は、胴割米の発生原因となりますので注意してください。

#### ②籾水分のムラ、余熟乾燥や戻り乾燥に留意しましょう。

・**籾水分は、14.5～15.0%**になるように仕上げましょう。  
・籾の水分過多では「肌ずれ」、過乾燥では「胴割粒」が発生しやすくなるので注意しましょう。  
・**高温登熟年は、適期に収穫しても籾の水分にムラがあるため、『2段乾燥法』**を

[注意]

水分ムラがある状態で、一度に乾燥させてしまうと、元々水分の少なかった籾は過乾燥となり、胴割粒の発生が増加します。

用いましょう。

〔参考〕2段乾燥法とは……  
籾水分を一旦、18%程度で乾燥機を止め、5～8時間おいて調湿した後に、14.5～15.0%に仕上げ乾燥を行う方法の事です。  
・青米粒の混入割合によって、乾燥機を止める時の水分や停止後の水分変化が異なるため、注意しましょう(右の表を参照)。

【乾燥機の停止水分判定表】

100粒中の青米粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.5～15.1%	乾く(下がる)
6～10粒	15.0～14.6%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.5%	戻る(上がる)

### (2) 調製作業の注意点

#### ①事前に籾摺機の点検整備を実施しましょう。

・「肌ずれ」、「胴割粒」の発生を抑えるため、籾摺前に**籾水分(14.5～15.0%)**を確認しましょう。  
・作業開始前だけでなく、**作業中も籾摺りの程度をこまめに確認**しましょう。  
・籾が混入している場合は、籾の流入量・ロール間隙・選別機の調整を実施してください。

#### ②ロールの間隙は、籾厚の1/2が目安です。

・ロールの間隙を締めすぎると「胴割粒」や「肌ずれ」、広いと「もみ混入」が発生しやすくなるので注意しましょう。  
・ロールが摩耗・劣化している場合は、交換してください。

#### ③ライスグレーダーの網目のサイズはLL網(1.9mm)を使用し、整粒歩合80%を目指しましょう。

・ひやくまん穀は必ずLL網を使用してください。

#### 【適期刈取、適正な乾燥調製作業の徹底!!】

- ◎ 胴割粒の発生防止のため、収穫作業は籾黄化率80%から開始し85%までに終わらしましょう!
- ◎ ヤケ米発生防止のため、刈り取った籾は速やかに乾燥機に!!
- ◎ 無理のない乾燥調製作業で、胴割粒、肌ずれ、籾混入の発生防止!!!

**【注意!!】カメムシ防除剤としてキラップ粉剤DLやキラップ粒剤、キラップフロアブルを散布した場合は、散布日から14日以降での刈取りを厳守してください(上記の農薬は、使用時期が「収穫14日前まで」と定められています)。**